



プロジェクトはいよいよ最終年度に突入し、4年間の活動の締めくくりを迎えています。本号では**生乳の品質管理／品質向上**に向けた取り組みについて紹介させていただきます。

## ○酪農家が直面している課題

プロジェクトの対象地域であるハイバル・パフトウンハー州の3県には、約70万世帯の小規模酪農家が存在するとされており、彼らの多くは自宅で搾乳した生乳を近隣住民や仲買人に販売し、それを生計の一部としています。しかし、中には生乳の量を増やすために水を加えてかさましする酪農家が存在したり、常温で保管された生乳が運搬中に腐ってしまい、売り物にならなくなるといった問題が多発していました。これらは生乳の品質管理に関する知識や設備不足が原因であり、また対象地域の生乳への信頼感を損なう一因にもなっています。このような現状は生乳を含む対象地域の乳製品バリューチェーン、ひいてはマーケティングにまでも大きな影響を与えていると考え、プロジェクトでは以下の活動を実施することとなりました。

## ○乳質検査設備の導入

プロジェクトではまず生乳に加水されていないか、細菌が繁殖していないかを調べるための乳質検査室を対象地域3県に1カ所ずつ設置しました。選ばれた獣医助手が定期的に酪農家の生乳を検査し、販売されている生乳の品質状況を把握できるようにした他、生乳仲買人に集荷された生乳の品質を保証するため、生乳販売店が利用する場合があります。この検査室を導入したことで、科学的エビデンスを用いた衛生指導を酪農家へ行うことができるようになり、また対象地域で生産される生乳や乳製品の信頼感向上に寄与することができるようになりました。

次にプロジェクトは生乳仲買人に注目し、彼らの集乳所に生乳冷却器を設置するパイロット事業（対象地域3県で各1カ所）を開始しました。

## ○生乳仲買人 Mahroof Hussain Shahさん



Abbottabad県Jaswal村のマルーフさん（写真左）は、近隣農家から生乳を購入し、小売店等へ販売する生乳の仲買人として生計を立てています。プロジェクトでは酪農家から集めた生乳を冷却保存できる体制を整えるため、マルーフさんの集乳所に生乳冷却器（写真中央）を導入しました。合わせてカウンターパートであるラシッドさん（写真右）が中心となり、近隣農家へ畜産の適正技術研修を行い、適切な家畜管理を指導することで、マルーフさんが集乳する生乳の品質向上をサポートしています。マルーフさんによると、パイロット事業の効果は如実に表れており、冷却器により生乳が腐ることがなくなったこと、また乳質検査により近隣農家が生乳に加水することがなくなったことが大きなインパクトとのことでした。

また女性からも嬉しい声が上がっています。マルーフさんの母であるファルザナ・ビビさんは、普段から家畜の管理や搾乳を行っていますが、生乳冷却器が導入されたことで生乳の廃棄が減り、その分の収入が増え、さらに家畜を購入するための貯蓄ができたと言います。また冷却器のメンテナンスや冷やすことで生乳の品質を維持できることなど、新たな知識を学んだと話しました。

## ○小規模酪農家 Awal Khanさん

良い影響が出ているのはマルーフさん一家だけではありません。こちらのアワルさん（写真下）は生乳をマルーフさんに納めている近隣の小規模酪農家の一人ですが、適正技術指導の結果乳量上がり、牛が乳房炎になることもなくなったとのこと。



その分の治療費を貯蓄に回すことができるようになり、また冷却器により生乳が腐ることが減ったため、結果的に以前より収入が増えたとの嬉しいご意見を聞かせてくれました。



マルーフさんへのインタビューの様子。プロジェクト現地スタッフ、カウンターパートが同席



カウンターパートによる近隣の小規模酪農家への畜産適正技術指導の様子。

編集者より：今回ご紹介したパイロット事業は未だ実施途中で、プロジェクト終了までにどのような結果がでているかとても楽しみです。次回のニュースレターも乞うご期待ください♪